

センネンネ





千年間変わらずに鳴り続ける音がある





永琳?
おはよ...

私の意思に関わらず止むことのないこのリズム

...おやすみ。

寝直さないで
ください!!

ブラッドミュージック
脈拍の鼓動

ただその音だけが
私の生きている証なのだと、
そう信じていた。

センネンネ







一人だけで
出歩くなんて
久しぶりね…



そういえば



そして…



月からの追手に
脅え続けていた
永い日々――



ガッガッガッ



だっ…

はっ



おや、
あなたは…

が

サッ



お一人で
お出かけで
めずらしい？

ガガガガガ



…別に
あなた
のじゃあ
ないでし
ょう

竹
泥棒？



ええつと…



あなたこそ
どうしたの
ですか？

こんな所
に一人きり
でいるだ
なんて

こんな
所って…？



だ
ら…





おお、
そうだった

どにを
どにを
どにを
どにを

3POM



たのしい
ですよー?

流しそつめん!



は

!!?



よろしければ
あなたも一緒に
いかがですか?

ん?
!!?



センネンネ



この丘が
ちようど
いいかな？



あなたにも
手伝って
もらおうから。

これから
竹を使っ
てるんだ

そうめん
台を
設置
するの
に
だよ

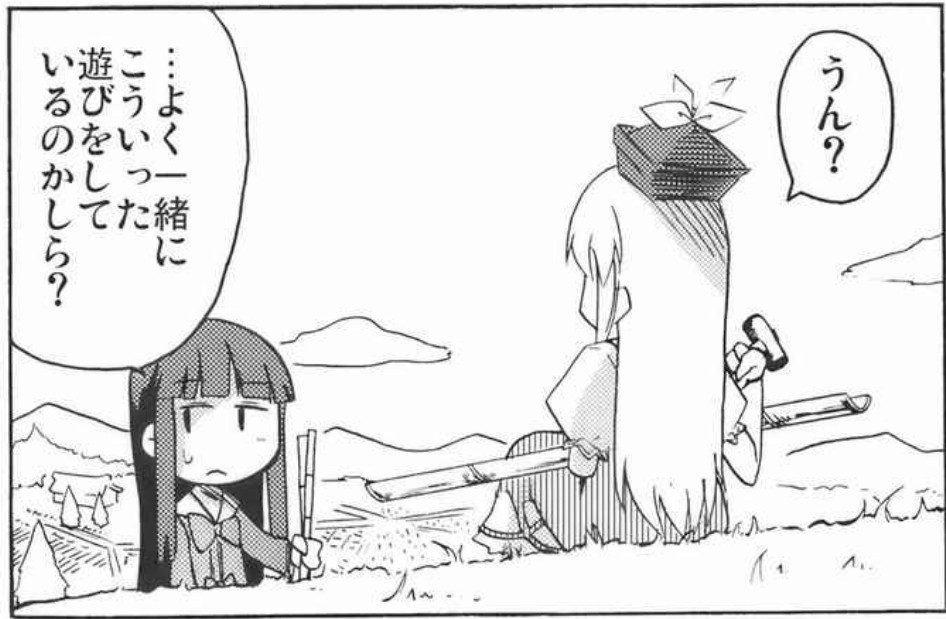
…ちようど
いいって？



せ



最近は、
その…



妹紅が
慎重になるのも
わかるんだ

私達みたいなのが
普通に暮らすのは
少し面倒だし

私ですら…

苦労がなかったね
わけじゃないしね

……

二んちかじに
なすれまふ。



だからといって
妹紅の場合は
極端すぎだった

ずっと里にも
近寄らず、
あの竹林で
たった独り…

妹紅、
みてくれっ

里でお祭を
してたんだっ

ほうら、
おいしそうな
焼きもちこし
だろう？

なに？
ひとくち
欲しいって？

仕方が
ないなあ
特別に…

いらねーっ

ここの
里の
お祭はさ、

妖怪や妖精も
紛れ込んで
騒ぐんだって

だけど、
私は
いいんだ。

くるっ

だから
あなたも
遊びに
来なさい

…
ありがとう

そうやって
いつもこの丘から
じつと静かに
眺めていた



賑やかな里の灯りを
ひどく遠くに
あるもののように…



求めさえ
してくれれば

いつだって
手が届く
光なのに…

……



だけど
最近ね、

少しずつだけ
変わってきて
いるんだ



前よりずっと
笑つてくれた
ようになつた。

それになにより

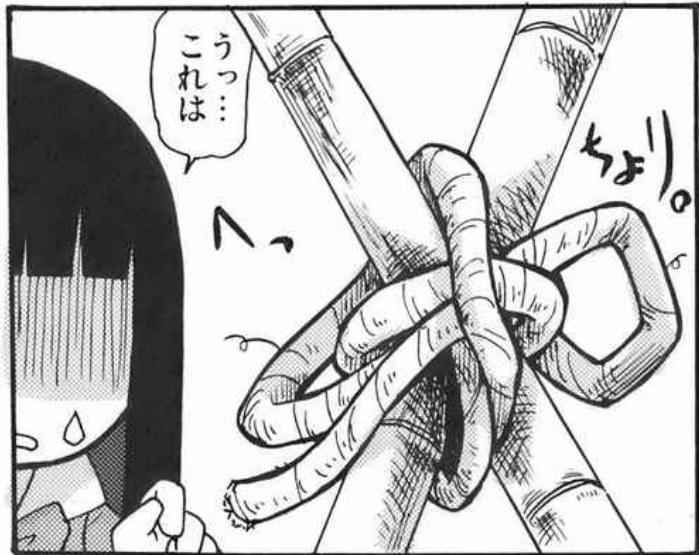


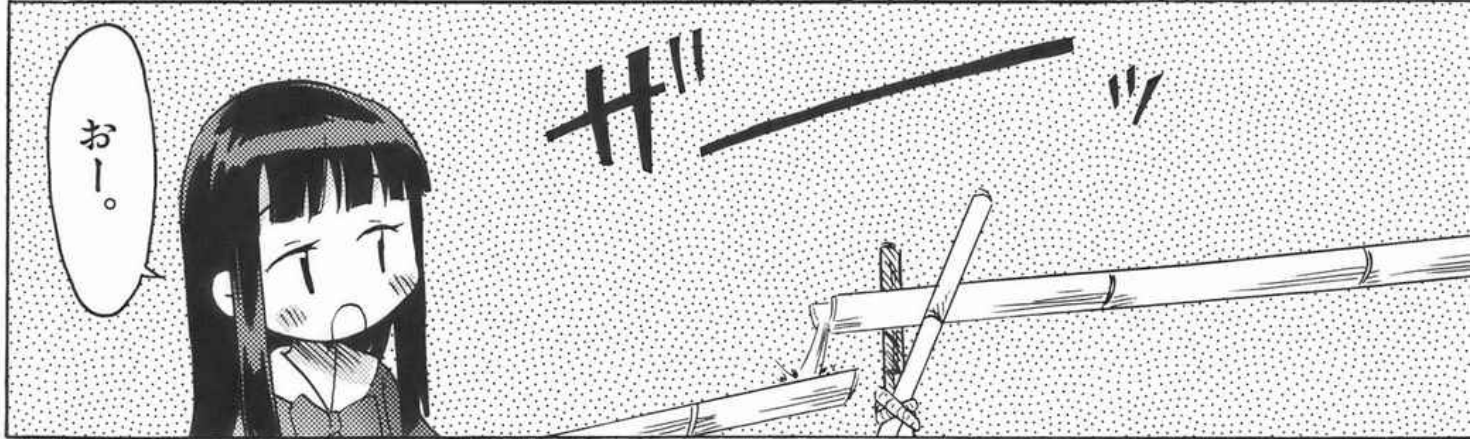
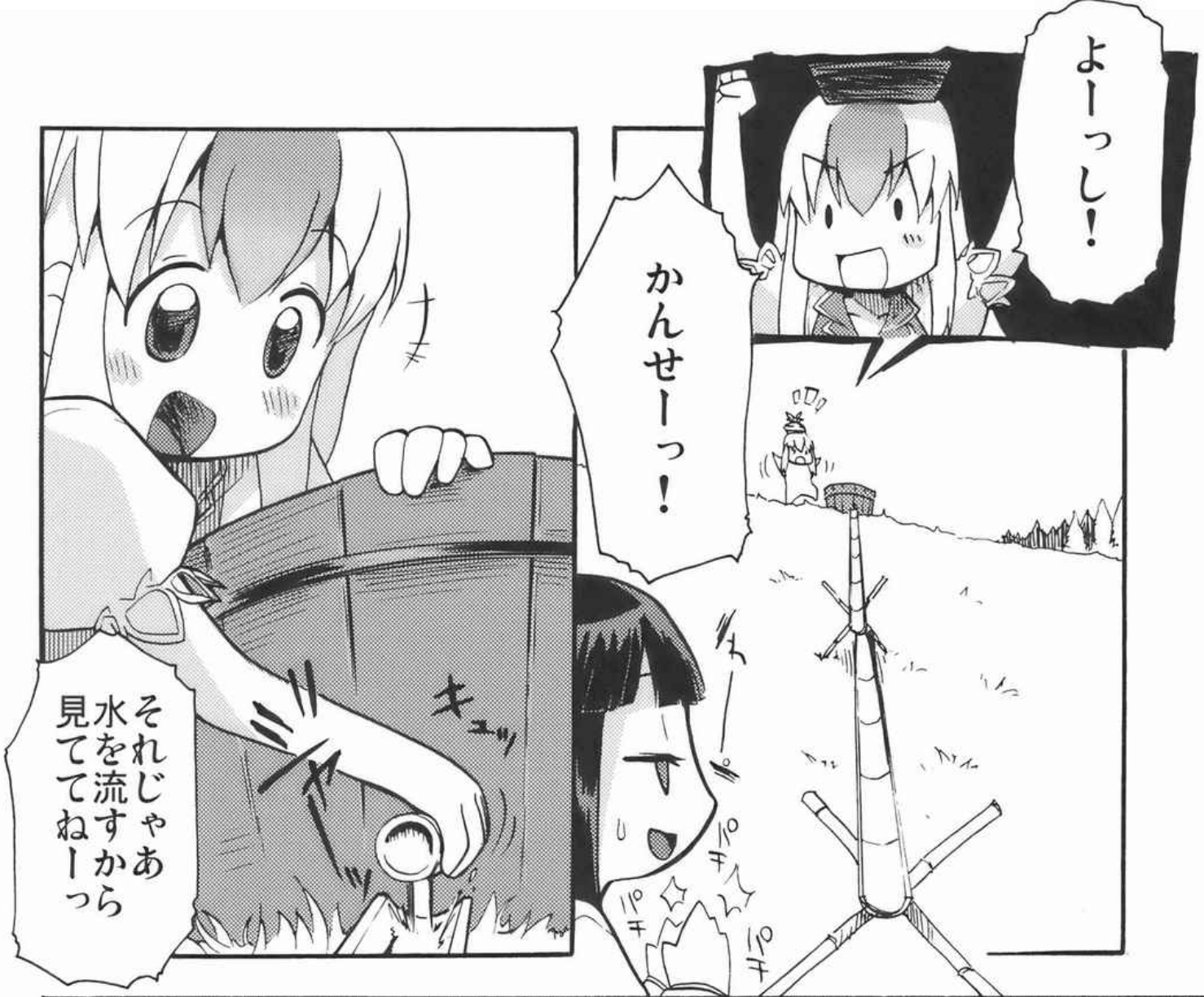
…へえ？



たまーに
だけ

こういう
遊びにも
気が向けて
つきあつて
くれるし







こっち!

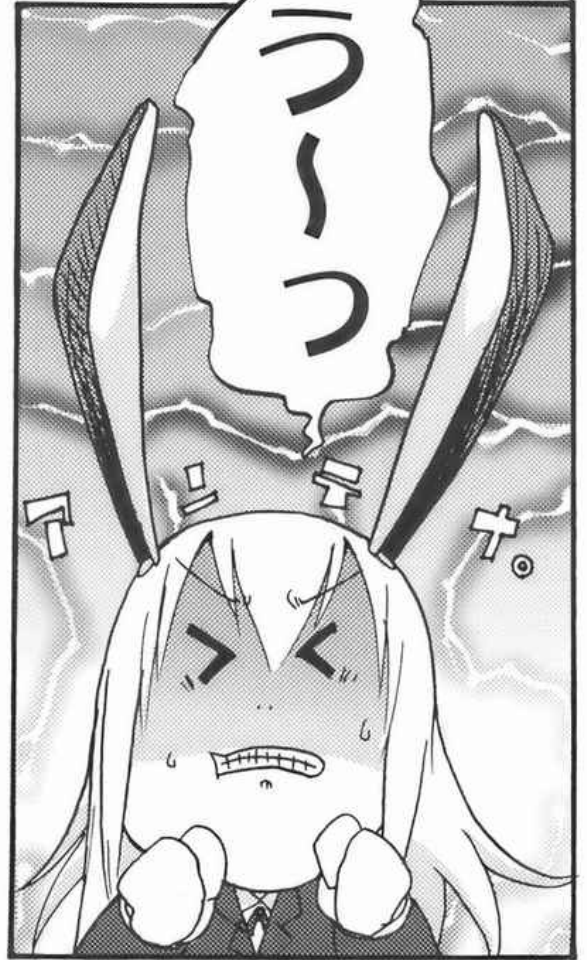
ムッ

ビビッ



…って、
人里のある
方角だよね

いやな予感



うーっ



ちよ…!!
あぶなっ

のええっ?

おい?
近…!!



どうかご無事で
いて下さい、
私のためにも…!!

だ



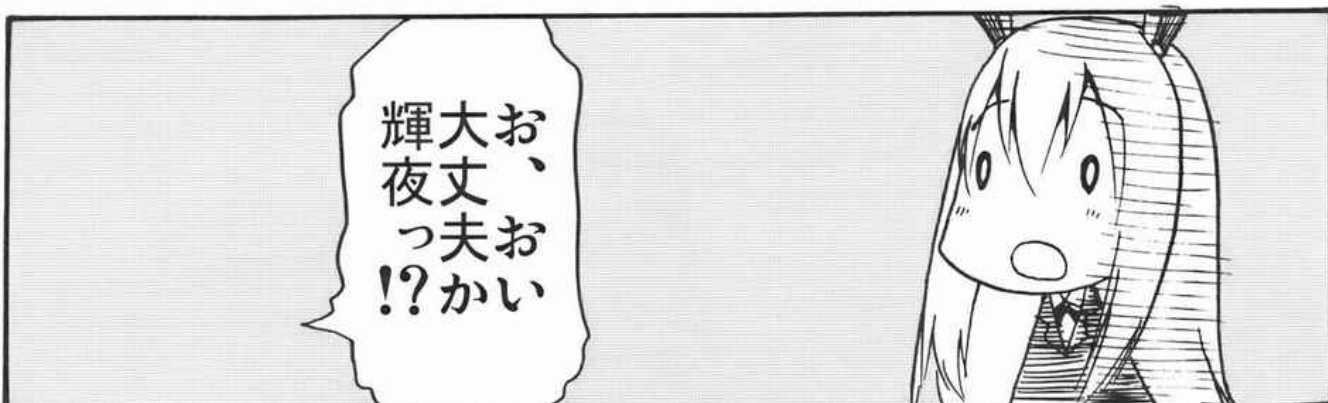
の才おおっ?!?

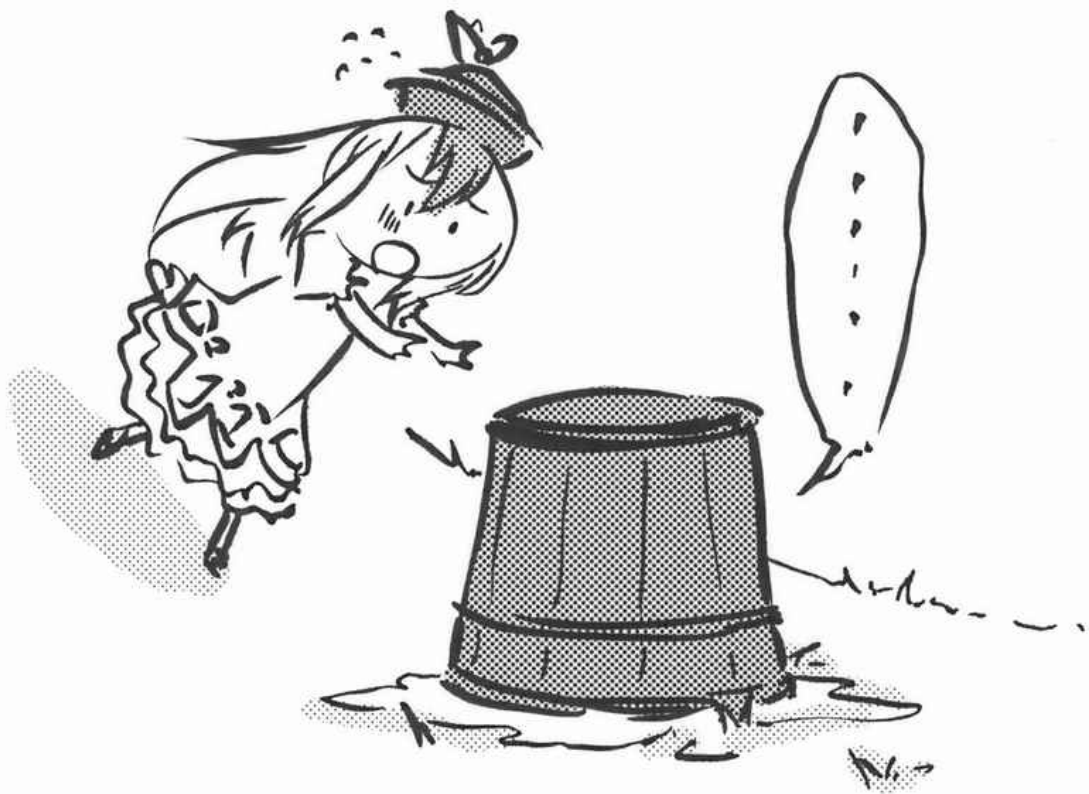
輝夜ーっ!!!



...え?







センネンネ



あのな…

おび

結び方が
わからないのなら
素直に訊いてくれ。



言っておくけど
私はねっど

一人じゃ
帯紐すら
結べないわよっ



なんだ
それは…

胸を張って
言うこと？

クス

クス

ハハ



それにしても…

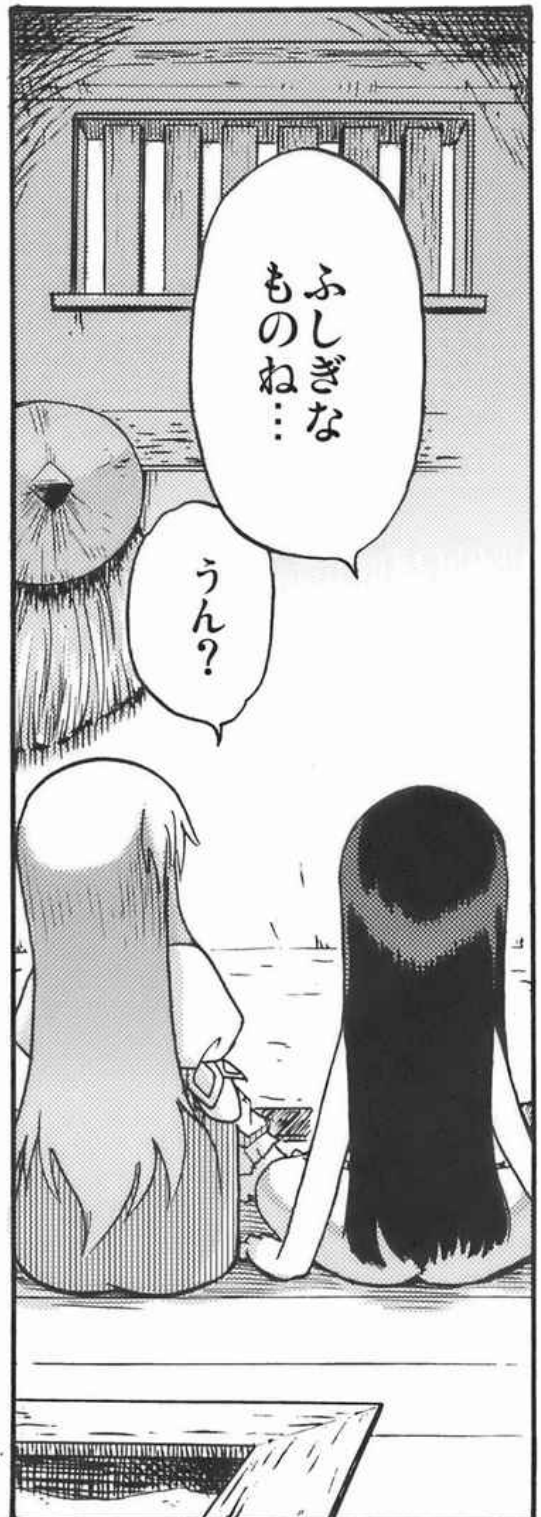






永い年月
なんの変化も
隠れ住んで
私と妹紅が

なんだった
今更になん
変わって
いくのかしら？



ふしぎな
ものね…

うん？



ふしぎ…？



どうかな？

私には
それほど
意外には
思えないが



あの時
あなたたちは
千年の沈黙を破り

歴史の表舞台へ
姿をあらわし
その存在を
幻想郷へと
知らしめた



おそらくは
変化のきっかけと
なったであろう
あの永夜事変…

その全容を
把握している
わけではないが…



それは
言い換えれば、
あなたたちが
他者の歴史と
触れ合った
ということ。



違う歴史を持つ者同士が
同じ時の中で出会えば
あるいは惹かれ、
あるいは衝突し、

様々な形はあれど
互いの軌道に影響を
与えあうのは必然。

わかるか？
蓬莱山輝夜

人間であるか
そうでないかとか

その寿命に
限りかあるか
どうかだとか

そんな事は
まったく関係の
ないことだ



他者と歴史を
共に刻むこと――

つまりは
それこそが――。





…ねエ、

気付いて
いるかしら？

妹紅が
変わった
もて
きたの

あなたが主催した
あの肝試しの夜
以来なのよ？



案外と
世話焼き
なのだなア、
あなたは…

はア
!?

なによそれっ
勝手な解釈は
迷惑よっ！

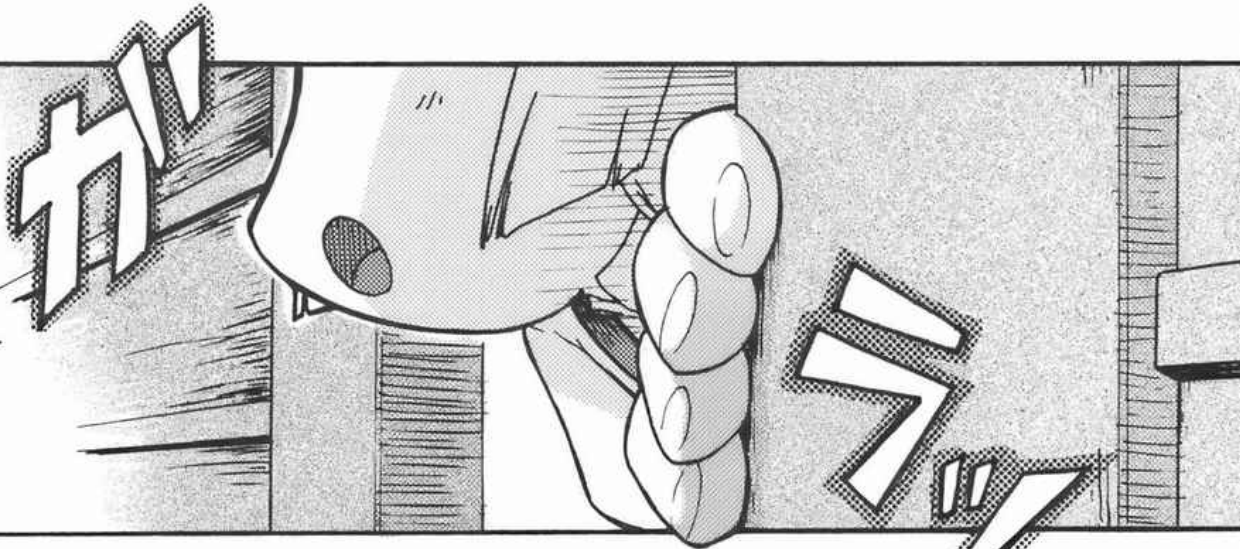
おやおや、
照れることは
ないだろうに

誰が…ツ！

な、な…っ

ニヤグ
ニヤグ

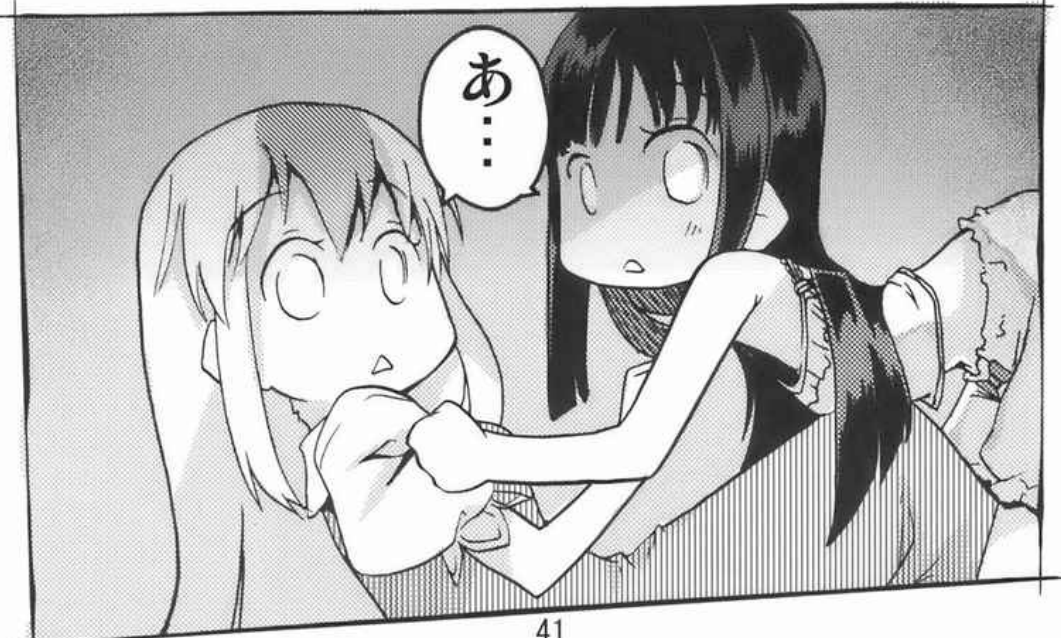
慧音エ、
入るぞ〜。

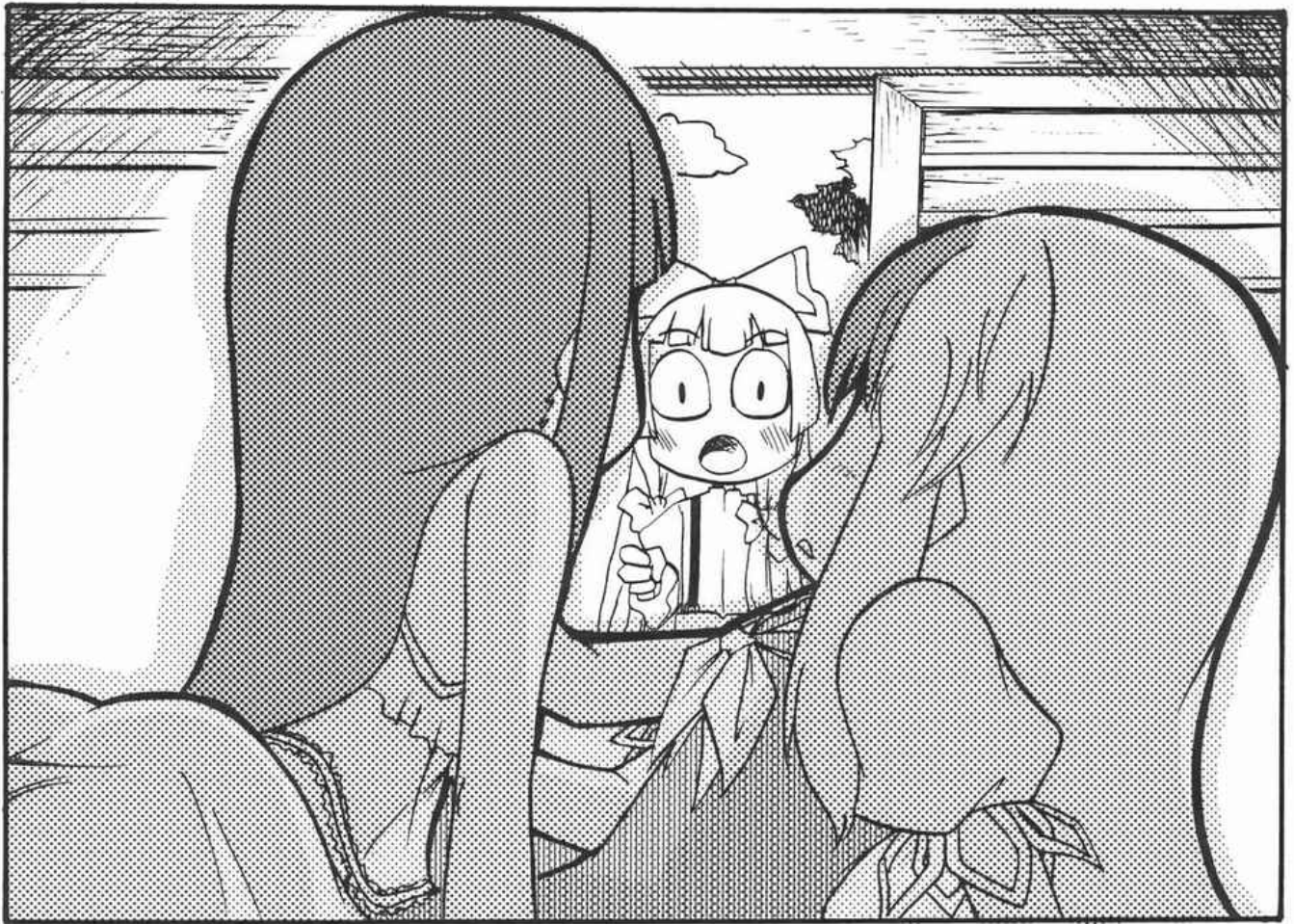


さっき
そこでああ。



輝夜んこの
うさぎが
泣きながら
襲い掛かって...









たしかに…
妹紅も
ずいぶんと
変わったものね

あら、
あなた
が
言
え
た
が
こ
と
か
し
ら
う
?

あん?



大トナリした
あんたを
一体
誰が
牛乳
にした
の



あなたも
妹紅も、
最初
に
会
っ
た
と
き
は

ど
れ
だ
け
に
ヒ
ド
イ
目
に
合
わ
さ
れ
た
に
も
の
だ
か
ら
…

あ、
そ
ん
な
こ
と
も
あ
っ
た
っ
け
?



…でもさ、
そん
な
に
珍
し
か
ら
い
だ
ろ
う
?

変
わ
っ
て
い
く
こ
と
な
ん
て
い
く
当
た
り
前
だ
と
思
う
け
ど
な

生きて
いるん
だっ
たらさ

ああ、そうか—

…いいえ

そうね、
その通り
だわ。

うん？
おかしいか？

生きて
いれば…？

それはきっと、本当に当たり前のことで

霧雨魔理沙、
あなただけでば
まったく…

わっ
お、お、お、

とんでもない
魔法使いだわ。

閉じた世界にいた私は、そんなことすら忘れてしまって

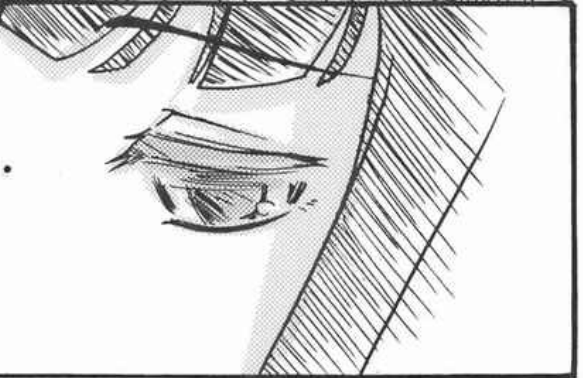
お、
おう？

だけど、今は—

今はすべてを
取り戻せた気がする—



そして妹紅、きっとあなたも…



自分自身の
生にすら
確信が持てず
全てを拒み…

この千年間
ずっと私と
同じように



妹紅!!

…輝夜?

妹紅、私達は
本当に—

本当、
呆れるくらい
バカよねえ

でもね、
今はもう

それすら
愛しく
感じられるわ。

はあっ!!

たとえ過去の過ちを背負っていても





な、ななにすんだ
この痴女ツ!

お
え
え
え

唾は
いた
たね
エっ

耳を
ふさ
ぐな
っ
聞
けよ
この
っ!



ちよ
っと
待
て
け
ー
ね!

なん
だよ
純
潔
っ
て!

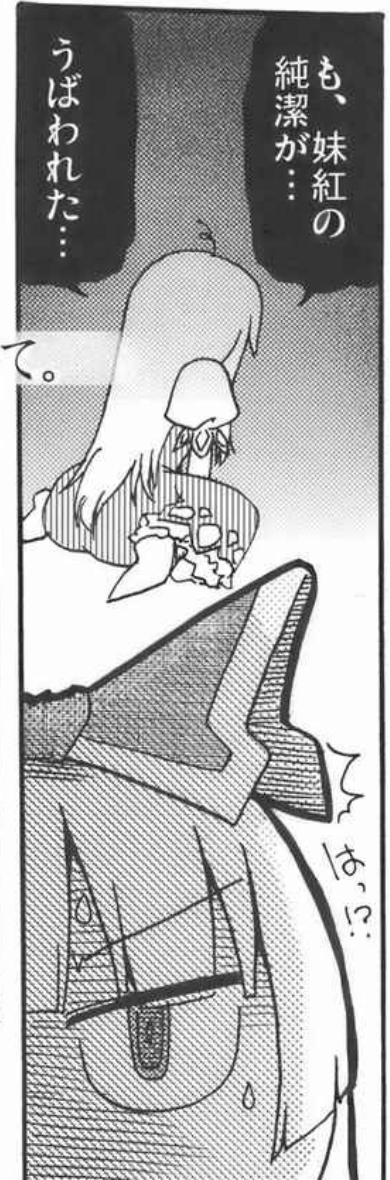
指
さ
し
て
笑
う
な
っ
て!

そして互いに響かせあって。



あ
な
た
だ
も
そ
ん
な
風
に
も
笑
う
の
こ
と
が
あ
る
の
ね
え

…
そ
う
ね、
こ
ん
な
の
に
は
笑
っ
て
ま
は
始
め
て



も、
妹
紅
の
純
潔
が

う
ば
わ
れ
た

はっ

あなた達と
一緒だと

この先ずっと
退屈しそうで
ないわ。

きっとその絆こそが、私の—



焼きたん。



まるちら

